



土屋英治さん＝伊豆市牧之郷

NPO法人伊豆市
リトルシニア監督

土屋 英治さん（65）

伊豆市牧之郷

大学野球では2人ともレギュラーではなかつたが、社会人としての基礎をたたき込まれた。大学野球の経験を人生の軸にして現在、社長業に励みながら、地域活動するといった同じ境遇にある。共感する部分がとても多く、経験者同

「自分には決してまねできない」と強い尊敬の気持ちを抱いてい

る。

17年前、伊豆の住民と国土交通省沿津河川事務所が魅力ある伊豆地域づくりに取り組む会議「FR OM（フロム）伊豆」に、地区代表者として互いに出席したのが出会い。語り合いながら、大学野球の経験を持つ共通点があることが分かり意気投合した。さらに、中学生の硬式野球チーム・NPO法人伊豆市リトルシニアの監督として活躍・奮闘していることを知り

「自分には決してまねできない」と強い尊敬の気持ちを抱いている。だからこそわかり合えるプライドもどこか似ている。

東豆土木社長
出口 直樹さん（52）
熱海市下多賀



地域性にあった指導、人間教育の場

この指導が奏功し、創立4年目には全国制覇を達成した。また3人の甲子園球児、日本女子プロ野球リーグで活躍中の選手を輩出する輝かい実績も挙げている。全国区の感覚を持ちながら、気負わず、穏やかな氣質の住民や温厚な指導に徹していることが素晴らしいことに敬意を表したい。

修善寺工業高（現・伊豆総合高）の監督を経て、リトルシニアの監督となつて13年ほど。「若いときのミスは次の一步につながる。怖がつてはいけない」が口癖だ。主催する大会「フレンドリーカップ」の優勝チームは、参加チームの投票で決める。監督、コーチは怒らず、笑顔で指導しているか、選手は楽しくプレーしているか、あるいははどうかなどを評価する。

一人一人の個性を重視し、勝ち負けにこだわらない寛容な指導法を実践していることが分かる。障害者野球への支援・協力も積極的。チームは野球のテクニックを教えるだけではない、人間教育の場として機能している。一方「ミスには原因があるが、勝つことにあまり理由はない」。成長へのしつかりした理論も持ち併せている。

全員が野球を楽しんで、地域社会に貢献できるよう、日々努力している。伊豆市牧之郷の豊かな自然環境の中で、子供たちが元気いっぱいに育つことができるよう、地域活性化に貢献できるよう、日々努力している。